

第3回 テーマ：「シャレタ町の魅力に迫る！馬見原まち歩き」

11月23日、馬見原商店街一円にて「シャレタ町の魅力に迫る！馬見原まち歩き」をテーマに開催されました。



説明を受ける参加者

あり珍しい土蔵造り3階建ての新八代屋の説明に参加者は、熱心に耳を傾けていました。参加者からは、「改めて自分の足で歩いてみると、魅力的な資源をたくさん再発見できた。」という声が多く聞かれました。

終了後の中学生のアンケートでは「学校の歴史の授業で出てきた偉人の名前がいくつも出てきて、勉強になりました。」などの感想があり、学校の授業と馬見原の歴史がつながる貴重な体験となったようです。

地元ガイドである、馬見原街づくり協議会の森川弘士さん（馬見原）、寺崎彰さん（滝上）、宮部博文さん（馬見原）を講師に迎え、小中学生など約40名が参加しました。開会后、2班に分かれ、馬見原交流広場からスタート。

各講師の興味深く分かりやすいお話を聞きながら、風情ある石畳や白壁、土蔵造りの街並みを観て歩き、明徳山では紅葉を堪能し、散策の途中では田園風景を味わうことができました。400年以上の歴史がある馬見原商店街の中でも、文化財で



明徳山の紅葉



第4回 テーマ：「山と生きる ～山の暮らし達人に学ぶ～」

12月17日、「山と生きる～山の暮らしの達人に学ぶ～」をテーマに、緑川の生き字引とも言われる、農家林家の奈須昇さん（緑川）を講師に迎え、清和地区緑川の清流館で開催されました。これまで山仕事に60年ほど携わってこられた自身の経験や体験を踏まえながら、山里暮らしの豊富な知恵や技、木の名前や特徴のお話があり、参加者は、楽しく学んでいました。



コブシの芽を手に説明をする奈須さん

また、場所を屋外へ移し、山で使っていた色々な道具についてもお話を聞く事が出来ました。その中の「しょいこ（背負子）」という道具には、実際に触れたり、背負ってみたり、昔の方の苦労や大変さを参加者が身もって体験することができ、アンケートの感想には、「面白い山の言い伝えを教えてください、とても勉強になりました。製材用のこぎりが大きくてとてもびっくりしました。」という声がありました。

最後には、名物しし汁やおにぎりのおもてなしをみんなでいただき、雪の舞う寒さが厳しい中での開催でしたが、温かい料理や緑川地区の方々のおもてなしに触れ、心も体も温まった一日となりました。

座学の「山の暮らしクイズ」では、小学生から一般の参加者が4班に分かれ、協力してクイズに答えました。「コブシの花が咲いたら〇〇植えの時期」などの昔からの言い伝えのクイズでは、参加した矢部高校の生徒たちが班を代表して元気に答え、大活躍でした。



しょいこ（背負子）を背負う参加者



※「コブシの花が咲いたら〇〇植えの時期」の〇〇とは、里芋のことです。